

2023 年度基礎研修レポート 研修テーマ（しょうがいのある子どもの理解と援助）

【クラブ】（たけのこクラブ）

【名 前】（米本美紀）

しょうがいを持つ子ども（診断名のある子）や診断名はないものの何だか接し方に難しさを感じる子どもと様々な子ども達と一緒に生活を共にする学童保育。

そんな中、しょうがいをもつ子どもも居心地がよく、楽しく生活するためには子どもの意見を聞き逃さないこと。

活動する権利、参加する権利があるように、一緒に活動し参加できるように私たちは努力しなければいけないと改めて感じました。

これらをしないとしょうがい支援とは言えないそうです。

活動する環境、参加する環境をつくらなければいけない。

しょうがいをもつ子どもも一緒に活動し窮屈にならないように参加できる場が学童という場所なのだと思いました。

実践記録をもとに、グループワークに入りました。

実践記録では、しょうがいがあるのか？ないのか？記載されていなかったですが、「何かあるだろう」という子どもの話しでした。

楽しくあそんでいる時はいいのだけれど、トラブルになると口より手がでてしまう。トラブルにならなくても、何かと相手関係なく手がでてしまいトラブルになる。手を出されてしまった子の保護者の方にも注意を受けたそうです。

そんな子どもが、たった一人の新しい気の合う友達ができ、起伏の激しさが落ち着いて成長したという内容でした。

友だちや大人の多様性を実感でき、自分が認められる居場所を学童保育の生活の中で充実し楽しい空間になったのかな？と思いました。

グループワークの中では、学校では大人しく、学童では暴れん坊な子はよくある話しで、でもそれは学童が安心できる場所であったのではないか、学校から解放され家に居る感覚で過ごすことができるなど沢山の意見がでました。

手をだすことはダメなことではあるけれど、うまく自分を表現できないから手がでてしまう。指導員として、話しを聞き共感し認めることをしてあげると少しずつですが手がでる行為は減るのでは？と、いう意見でまとまりました。